放送大学山形学習センター　　令和６年２月発行第８号

山　形　SC　通　信

2024年第１学期の科目登録は、2月１３日スタート

2024年度第1学期に履修する科目の登録が始まります。

登録期間は、2月13日（火）～ 2月29日（木）

科目登録方法には、【郵送方式】と【WAKABA方式】の2通りがあります。

是非、【WAKABA】を利用して登録することをお勧めします！

（科目登録は、システムWAKABA「教務情報➡科目登録申請」から申請してください。）

【WAKABA】方式のメリット

☆彡【WAKABA】が**改修されました。**（4頁参照）

☆彡登録期間内は　何回でも修正が出来ます。（郵送申請は、郵送すると変更はできません）

☆彡第2学期の成績発表後（2月16日くらいの見込み）その結果を見てからでも余裕をもって検討・登録できます。

わかる　第１学期 面接授業の特徴

山形学習センターで第1学期に開講する「面接授業」の特徴について「担当の先生」からメッセージをいただきました。是非、履修選択にお役立てください。

基盤科目

アカデミックライティング基礎編

橋爪孝夫先生（山形大学准教授）

「アカデミックライティング」と聞くと、言葉の響きからして「研究者が論文を書く時の技術」ということで、自分とは縁遠いと思う人もいるかと思われます。しかし、アカデミック＝学問の精神に則るということは「問いて学び、答を探す」という人間の知的欲求を満たすことであり、誰にとっても意義のある探求の訓練になります。この授業では基礎編ということで、学問の入り口に立つ大学一年生を想定し、実際に資料を集め、手を動かし、レポートを書く活動を通してアカデミックライティングの基礎となる「型」を身につけることを目指します。

6月8日～9日

情報コース

メディア文化の物語構造分析

小池隆太先生（山形県立米沢女子短期大学教授）

「昔々あるところに…」と語り出す説話、「昨日友だちから聞いた…」と語り出すウワサ話、「今日午後4時頃山形市で…」と語り出すニュース番組、「人類が宇宙に進出して半世紀…」と語り出すＳＦ映画、等々。私たちが享受する情報は、何らかの視点に基づいて「語られた」もの、すなわち「物語」としての側面を有しています。この「語り・物語」の観点から「情報」や「作品／ジャンル／文化現象」について観察すると、以前には見えなかった「構造」を知ることができます。その方法としての「物語構造論」を学ぶことで、現代のメディア文化を読み解く力を鍛えてみませんか。

5月18日～19日

心理と教育コース

社会教育の展開と現在

安藤耕己（山形大学教授）

社会教育とは、ひらたく言うと学齢期の子ども・若者にとっては「学校外教育」、学校を卒業した大人にとっては「成人教育」の意味を持つ教育の領域です。その意味で本科目は、「学校中心ではない」日本近現代教育史になると思います。あまり歴史が得意ではない方も、古い映像記録を見つつ学びますので、イメージがつきやすいかと思います。近代～高度経済成長後までの社会教育は主に義務教育終了後の勤労青少年層を対象としていました。ゆえに本講義も青少年教育に関する内容が多くなります。

7月6日～7日

心理と教育コース

はじめての認知行動療法

河合輝久先生（山形大学准教授）

認知行動療法とは，人のものの見方や受けとめ方である「認知」（考え方）の幅を広げたり，困ったふるまいである「行動」がもたらしている効果を捉え，同じ効果をもつ別の行動に置き換えたりする等して，人々のこころの健康を支える心理学的援助の一つです。本授業では，座学にとどまらず，認知行動療法の中身を体験的に理解できるよう，自分の考え方やふるまいを振り返るワークも行います。本授業での学びを日常生活の中で実践してもらうことで，自分自身のこころの健康を支えることに役立つかもしれません。

5月11日～12日

社会と産業コース

地方都市を読み解く

山田浩久先生（山形大学教授）

普段、皆さんが暮らしている街はどのようにして形作られてきたのでしょうか。お城や港、道路や公園、すべてそこにそれがある理由があります。そして、それらは次の時代の街が形作られていく基礎になります。現在の街をどのような形で自分の子供や孫に引き継いでもらいたいですか。皆さんの考えを是非、面接授業で聞かせてください。教員が教壇で説明する理論だけでは、まちづくりは進みません。感想や希望で構いません。他の学生と意見を交換しながら、パソコンのモニター画面だけでは得られない「みんなで考える」姿勢で街を読み解いていきませんか。

6月1日～2日

社会と産業コース

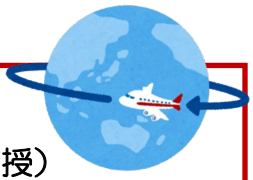
果物を知る、作る、食す、楽しむ

平　智先生（山形大学教授）

授業を行う6月半ばの山形はさくらんぼの収穫シーズン。梅雨の長雨が比較的少ない山形盆地の気候がさくらんぼの栽培に向いているのです。さくらんぼのあとは、すもも、うめ、ぶどう、日本なし、かき、西洋なし、りんごと、「くだもの王国やまがた」のフルーティーな旬が続きます。私たちの食生活に身近な果物たちですが、その形の多様性や栽培技術、人と果物との関わりには、まだみなさんが知らないこと、意外なことが実はたくさんあるのです。本授業を通して、もう一歩進んだ「果物通」になりましょう。

6月22日～23日

社会と産業コース



農業と農村の地理学

渡辺理絵先生（山形大学准教授）

授業名に「地理学」とついた本講義ですが、「地理」が好きな方も苦手な方も、農業という視点から、いろいろな地域を旅してみましょう。本講義の最初の旅はアフリカです。みなさんを人類誕生の地へ誘います。次は西アジアです。農業の誕生の物語をみていきましょう。

徐々に時代が現代にちかづくと日本の農業と農村の姿が視界に入ってきます。そこには若干、長居をしてコミュニティから地域、国という様々な空間スケールで、私たちの身近な問題にせまっていきます。一緒に地理学を楽しみましょう。

4月27日～28日

社会と産業コース

3Dメイカー未来塾

古川英光先生（山形大学教授）

「ものづくりの未来を切り拓く旅に、ぜひ一緒に参加しませんか？デジタル革命はものづくりにも革新をもたらしています。日本の技術が世界で高く評価される一方で、新たな流れに迅速に対応できていない部分もあります。しかし、最先端の3Dものづくり研究は、驚くほどエキサイティングな世界なのです。この世界を探求し、手を動かす喜びを感じていただけるはずです。ぜひ、この講義を通じてその魅力を実感してみてください。新たなワクワクがあなたを待っています！」

6月29日～30日

社会と産業コース

日本外交を学ぶ２

白鳥潤一郎先生（放送大学准教授）

普通に生活していると、外交や国際政治は遠い世界の出来事のように思えるかもしれません。しかし、当たり前のように外国からの輸入品が店頭に並んでいることも、郊外の大型店に人が集まることも外交と密接に関係しています。世界が激動の時代を迎える中、今後の針路を考える上でも、歴史を学ぶことは欠かすことができない作業です。日本は国際社会の中でどのように歩んできたのでしょうか。この講義では、戦後日本外交の見取り図を示した上で、高度経済成長期を中心に概説します。

5月11日～12日

生活と福祉コース

持続可能な暮らしとまちづくり

高澤由美先生（山形大学准教授）

わたしたち一人ひとりは持続可能なまちをつくる重要なステークホルダーです。講義では、安全安心に、そして豊かさを感じられるまちをつくるために、どのようなことが大切なのかを学びます。そして受講生同士の対話を通して気づきを得て思考を深められるような講義を目指しています。みなさんのより良い暮らしを支えるまちづくりについて一緒に考えてみませんか。

6月1日～2日

自然と環境コース

天然物の化学

塩野義人先生（山形大学教授）

天然物の化学は、生命の神秘を解き明かし、医薬品や食品の分野で実用的な発見をもたらす魅力的な分野です。研究者は、天然物の多様性や進化の謎、医療や健康への応用に引きつけられています。また、化学合成方法の開発や環境への配慮も重要なトピックとなり、地球環境に優しい技術への期待が寄せられています。天然物は日常生活に深くかかわり、私たちの健康や環境に寄り添う未来を切り拓いています。こういうことに関することを講義では紹介します。

6月22日～23日

人間と文化コース

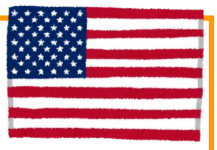
山形の郷土料理ー今昔探究

石垣和恵先生（山形大学准教授）

あなたにとって後世へ伝えたい郷土料理はなんですか？この授業では、昭和初期までの庶民の食生活に焦点を当てて先人の知恵と文化について学びながら、これからの私たちの食生活について考えてみましょう。上杉藩の『かてもの』や『和歌食物本草』から、飢餓に備えた先人の知恵を学ぶとともに、災害に備えた食料備蓄についても考えます。また、山形県の昭和初期の食事を実際に調理し味わいます。「山菜と身欠き鰊の煮物」や「油味噌」、「黒豆ご飯」、「なた巻（ゆべし）」など、５月の食材を使った山形県の内陸地方の郷土料理です。庶民の日常食の調理はいたってシンプルで、見た目は地味ですが、十分に満腹感のある滋味あふれるものです。

5月18日～19日

人間と文化コース



アメリカ：過去と現在

伊藤　豊先生（山形大学教授）

ご存知の通り、アメリカ合衆国は様々な人種や移民から成る多文化国家です。アメリカの「多文化」とは一見して美しいものであり、また過酷な現実の反映でもあります。それは合衆国の活力の源でありながら、自身の内部に多くの緊張や対立をもたらす原因でもあった、ということです。現代アメリカは合衆国特有の過去の延長上に成立しています。つまり、いま我々の眼の前にあるアメリカを知るには、その歴史を知ることが肝要なわけです。この授業では、アメリカ合衆国の大枠を形作っている理念や地理や歴史について概説した後、奴隷制と移民というアメリカ史における二大問題を取り上げて、できるだけ分かりやすく解説していくつもりです。

5月25日～26日